

連絡会をいつまでも元気にさせる私の虎の巻

NACOT (NACS-J 自然観察指導員東京連絡会) 川上典子

連絡会を充実させてきたのは、組織運営に関わり、地元での観察会を、決して外見だけでなく地道に長く継続してきて、多角的に試行錯誤しながら経験を積んできた会員のみなさんの力です。連絡会を次世代へつなぐという立場で考えると、今まで地道に取り組んできたことが今のナコットに反映されていると思います。

ナコットの活動が活性化しているというベースには、観察会を一つ一つ仲間で立ち上げてきたことと、それを支える運営体制があったことは基本的な活動といえますが、そのほかにもナコットならではの発想があったからだと思います。

* イベント性のあるものや、新しいアイデア(10年続いているアート展やワークショップなど)と観察会を結び付けて会を盛んにし、そのことによってリーダーを育ててきたこと。

* 一人ではなく「2010年のCOP10」に向けての1つの目標があったことが一番の要因ですが、大事なのは、運営組織を担う者たちが目標に対して責任を持って思いを強く持ってやっているということです。

* モニタリングとしての「セミの抜け殻しらべ」を子供たちの観察会に上手く結び付けてきたこと。そして各所での展示が、また観察会効果を生んでいること。そのことが、若いリーダーの活躍の場を広げていること。羽化観察会も然りです。若い方との交流会にもなっています。

* 連絡会組織が大きくなればなるほど、全体を見通し、会員たちの観察会の様子を知り、常に大きな視野でいること。一人では目は2つしかありませんが、運営委員のみなさんの目と心に支えていただいて今日活動を前向きに考えていくことができます。

* 地域の連絡会が高齢化しているということが多くの課題になっていますが、ナコットも確かに高齢者も多くなっています。でも、それなりの経験を活かしていただきたいので、持ち場持ち場でその方々に出番をつくり、次世代の方と一緒に伝えてもらうというやり方がバランスよくできる観察会になっています。

いきなり30~40代の若い方に変わればそれで活性化するというものではありません。路線を間違えると連絡会組織は脱線します。新商品のようにアイデアを取り入れつつ、それを支える組織体制は固めていくことが大事かと思います。つなげていく、今の私たちはそれが最も重要な役目だと今後も活動していきたいと思います。